

<注意事項>

- ・授業ガイダンスで示したように学年末試験は成績評価の 70%です。70 点満点で作成しています。
- ・解答の順序は問いませんが、どの問題の解答がわかるよう番号を明記して下さい。
- ・配点の高い問題は相応する分量の論述が必要となります。配点を論述の分量の参考にして下さい。

問1. 民主化の比較政治に関し、下記の問いについて論じなさい。

- (1) 権威主義体制の民主化は、支配層に抵抗する民主勢力が勝利して実現するだけではない。授業で検討した韓国・台湾の移行の挫折と成功の事例を整理して、政治体制の民主化はなぜどのように実現するのかを論じなさい（10 点）。
- (2) 権威主義体制が一度崩壊しても、そこで民主制が確立するわけでもない。近年は世界的に民主主義体制の後退が危惧されている。民主制の要件をどう捉え、その確立・維持には何が重要だと考えられるだろうか。授業での学習を踏まえ、具体的な根拠を提示して、この問いに対する見解を論じなさい（10 点）。

問2. 分断国家をめぐる国際関係について、下記の問題を論じなさい。

- (1) 中華民国は現在でも「大陸と台湾」を含む地域を公式の領土として掲げているが、現実の中華民国は「台湾大の国家」として、国際社会で生き残るための対外戦略を展開している。なぜどのように政府の対外政策は変化したのか、民主化による内政と対外政策の変化という観点でまとめなさい（10 点）。
- (2) 朝鮮半島全体を領土と掲げる韓国の政府は、80 年代末に対北朝鮮政策を大きく転換したが、それはどの政権によるどんな政策だったか。さらに、外交で劣勢にたった北朝鮮が核開発を推進して危機が顕在化するなかで、韓国政府は 2000 年の南北首脳会談に象徴されるような「関与政策」をとったが、それはどういう意図だったのか。北朝鮮に対する関与政策の意図と限界について述べなさい（10 点）。

問3. 東アジアの国際秩序に関して、以下の問いを論じなさい。

- (1) 現在の米中関係の基本枠組みは、米中接近から国交正常化の際に設定されたといえる。その核心となる中台関係について、中華人民共和国が主張する「原則」とそれに応じた米国の対中政策を整理したうえで、両国関係の基本枠組みが現在どのように動揺しているのかを論じなさい（15 点）。
- (2) 東アジアでは、(1)の中台関係のみならず、朝鮮半島にも大きな不安定要因がある。戦後の国際秩序が東アジアにおいてはなぜ安定せず、現在、危機が高まっているのか、問題の原因を論じなさい。そのうえで、問題に対応して日本はどのような政策をとるのが適切か、論拠を示して自らの見解を論じなさい（15 点）。